

**組織名** 新関西国際空港株式会社

**組織情報**

所在地 (代表組織)	大阪府泉佐野市泉州空港北1番地	
サイトアドレス	<a href="http://www.nkiac.co.jp/">http://www.nkiac.co.jp/</a>	
連絡先	電話	072-455-2014
	FAX	072-455-2058

**組織概要**

管轄・組織体制など

新関西国際空港株式会社では、関西国際空港と大阪国際空港の管理ならびに航空旅客・商業・貨物等の施設の管理を一体的・効率的に運用することにより、日本の航空需要の拡大、国際競争力の強化、経済の活性化に寄与するべく事業を行っております。



大阪国際空港

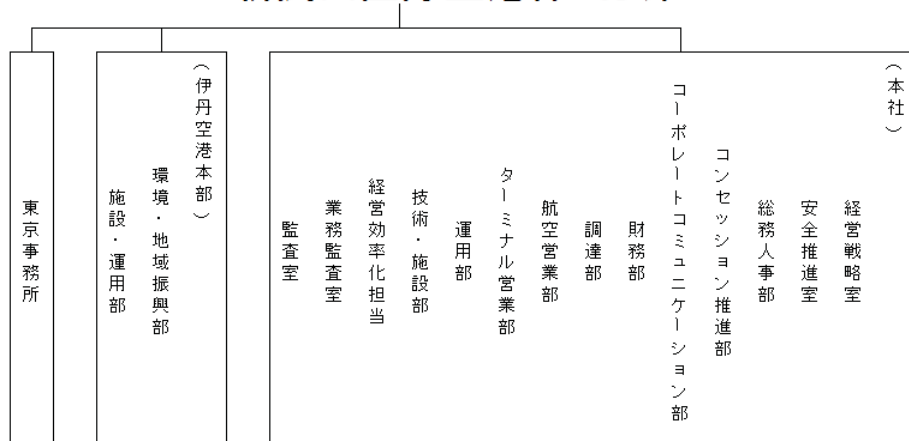


関西国際空港

所掌事務・担当業務

- ・関西国際空港及び大阪国際空港(以下「両空港」という)の設置及び管理
- ・航空保安施設の設置及び管理
- ・両空港の機能を確保するために必要な施設の建設及び管理
- ・両空港の敷地内に建設する施設の建設及び管理
- ・大阪国際空港の周辺における航空機の騒音その他の航空機の運航により生ずる障害を防止し、大阪国際空港の周辺における生活環境の改善に資するために行う事業
- ・関西国際空港と最寄りの陸岸との間の連絡橋その他これに類する施設の建設及び管理
- ・その他目的を達成するために必要な事業

**新関西国際空港株式会社**



**組織名** 新関西国際空港株式会社

**防災に関する取組など**

**□地震・津波への対策**

東日本大震災で想定を超える津波被害があったことから、「人命を最優先とする」方針で、従来の想定を上回る津波対策を検討しています。

2011年11月には、従来想定されている津波の高さの2倍を想定し、空港内のすべての人命の安全確保を目的とした「関西国際空港津波避難計画」を策定し、また、旅客ターミナルビルなどでの自衛消防防災訓練に津波避難訓練を取り入れ、津波発生時の避難誘導、避難経路などを検証しています。

このほか、災害時用備蓄品として、3日分程度の保存食や飲料水、簡易トイレの調達・備蓄を計画的に進めています。

**□耐震化への取り組み～島内高架道路の耐震補強～**

空港島内には、円滑な道路交通を確保することから、多くの高架道路が存在します。

これらの高架道路について、阪神大震災クラスの大規模地震が発生してもお客様が安心して利用でき、また地震後も利用できるよう耐震補強がされています。



耐震補強済高架道路

**□台風による高波対策の取り組み～護岸のかさ上げ～**

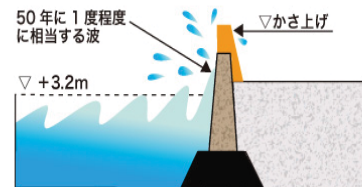
2004年には関空にも数多くの巨大台風が来襲し、関空での26年間の観測史上最大の高潮と高波に晒されました。

この時には、護岸を越えた波が、背後の道路をえぐり取るなどの被害も出ました。

また、数10年以内に起きると警戒されている東南海・南海地震津波に対しても備えが必要です。

こうした厳しい海象条件にも十分耐えることができるように、関空島の護岸を、順次、かさ上げしました。

かさ上げでは、大阪湾で記録が残っている最高の潮位(第2室戸台風を想定)の際に、50年に一度に相当する高波が来襲しても、護岸を越える波が抑えられるような高さまで護岸の高さを上げています。



護岸のかさ上げイメージ

**□集中豪雨や高潮への備え**

関西国際空港の地盤は海水を透しやすいため、潮位が上昇すると地下水の水位も上昇する状況にあります。

また、内陸と比べて、台風による水災害を受けやすい環境にもあります。

当社ではこうした水による被害を未然に防ぐため、地中に1期島全周を囲む止水壁を設置し、地下水の上昇を防止しています。

また、空港内10ヵ所に雨水排水ポンプを設置して、豪雨の際にも迅速に雨水を排水します。



巨大な排水ポンプ

**□雨水排水への備え(大阪国際空港)**

大阪国際空港施設内の地下に雨水を一時的に貯留する雨水排水貯留施設を整備しています。

周辺に大雨が降った時に、既設排水路の水位が上がると既設排水路から水があふれる前に雨水がこの施設へ投げれ込み、浸水被害を防ぎます。

トンネルの内径は約5.7m、全長は約1.8kmあり約45,000m<sup>3</sup>の水を貯めておくことができます。

そして排水路の水位が下がるのを待ってポンプで水を汲み出し、排水路へ流します。



地下の雨水貯留施設